

# 令和6年度 浜松市教育研究会 保健体育科 研究構想

## 1 研究の構想

### (1) 研究テーマ

自ら考え、ともに学び合い

分かる・できる・楽しいを実感する 体育科・保健体育科の学習

### (2) 研究テーマについて

現行の新学習指導要領では、一人一人の児童・生徒の持ち味である資質・能力を一層豊かに伸ばし、身に付けさせるべき資質・能力を育成するために学習評価が行われるべきと示されている。体育科・保健体育科の学習においては、生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育成するために、運動やスポーツ、健康への興味や関心を高め、『見る、知る、する、支える』という視点を基に、学習過程を工夫し、充実を図ることが大切である。

令和元年度から5年間、新学習指導要領を先行実施する形で「運動の楽しさや健康の大切さを実感し 自分らしく学び続ける 保健体育科の学習」のテーマのもと、研究を進めてきた。その中で、保健体育科の学習を授業改善と評価の視点から見直すことで、主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善や身に付けさせるべき資質・能力を育成するために行う学習評価の実践を積み重ねることができた。その結果、児童・生徒が「見る」「考える」「分かる」「できる」「友達とかかわる」「ともに支え合う」などの楽しさを味わいながら、主体的に運動に取り組んだり、健康課題を自分のこととして考え、自分の生活を改善しようとしたりする姿が多く見られるようになってきた。

今年度は、さらに授業改善を充実させていくために、育てたい資質・能力を明確にし、児童・生徒の実態や運動の特性を把握した上で、何を教えたらよいかを検討したり、小中学校の学びをつなぐ授業づくりの流れを継続させたりしていくことが重要と考える。また、児童・生徒が課題解決に向けて仲間とどのように学んでいるかという視点から、協働的な課題解決学習を推進し、その学びの過程を大切にしていく。そして、自分の課題に向かって仲間とともに取り組み、深く考え、分かる、できるを深化し、課題に沿った効果的な活動をしていく中で、達成感や満足感を味わわせ、体育科・保健体育科の授業がより楽しいと実感できるよう発展させていくことが重要である。

そこで、これらのことを踏まえ、令和6年度の研究テーマを、「自ら考え、ともに学び合い 分かる・できる・楽しいを実感する 体育科・保健体育科の学習」とした。

以下、研究テーマを具現化するための3つの視点である。

### (3) 目指す児童・生徒像と研究の視点

- ① 特性に応じた運動の行い方や健康・安全について理解するとともに、他者とのかわりを通して、必要な動きや技能を身に付ける (知識及び技能)
  - ・特性に応じた運動の行い方や基本的な技能を、他者とのかわりを通して身に付けさせるための工夫
  - ・健康・安全について理解させ、身近な生活に関連付けさせるための工夫
- ② 自己の課題を見付け、課題解決に向けて思考し判断するとともに、他者へ伝える力を高める (思考力・判断力・表現力等)
  - ・自己の運動や健康の課題の見付け方を理解させ、他者とともに課題解決に向かわせるための工夫
  - ・身に付けた知識や技能を活用し、他者とともに思考し判断させるための工夫
  - ・思考し判断したことを、様々な方法で表現させるための工夫
- ③ 運動の楽しさや健康の大切さ、共に学び合うよさを味わう (学びに向かう力・人間性等)
  - ・「できる」「分かる」ことから、運動の楽しさを味わわせ、友達とともに運動に取り組ませるための工夫
  - ・健康の大切さを理解させ、進んで健康の保持増進や体力の向上等のために活動する態度を育むための工夫

豊かなスポーツライフの実現

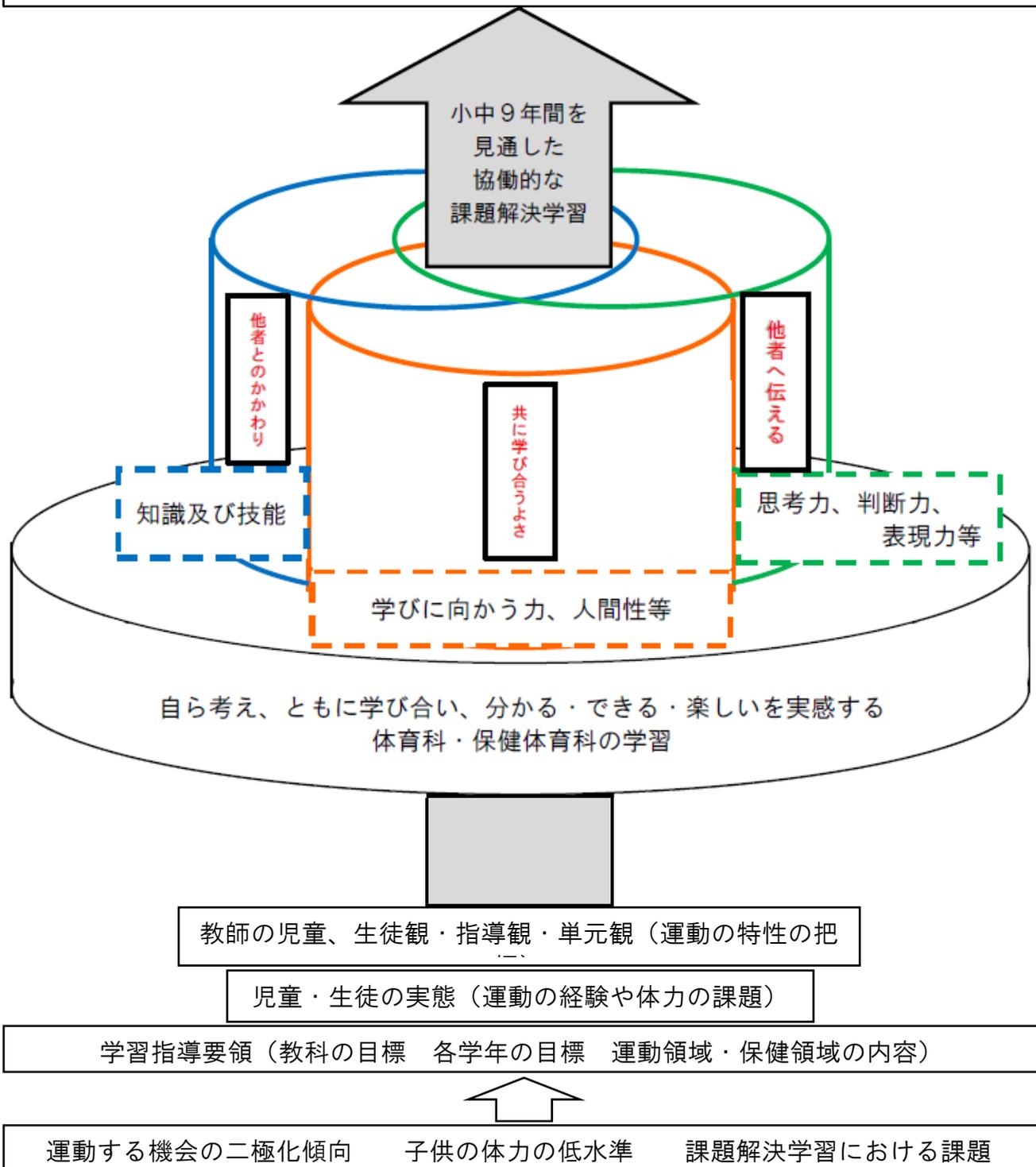
保健体育科研究テーマ（小中合同研究テーマ）

自ら考え、ともに学び合い

分かる・できる・楽しいを実感する 体育科・保健体育科の学習

<目指す児童・生徒像>

- 特性に応じた運動の行い方や健康・安全について理解するとともに、他者とのかわりを通して、必要な動きや技能を身に付ける
- 自己の課題を見付け、課題解決に向けて思考し判断するとともに、他者へ伝える力を高める
- 運動の楽しさや健康の大切さ、共に学び合うよさを味わう



小中9年間を  
見通した  
協働的な  
課題解決学習

他者とのかわり

他者へ伝える

共に学び合うよさ

知識及び技能

思考力、判断力、  
表現力等

学びに向かう力、人間性等

自ら考え、ともに学び合い、分かる・できる・楽しいを実感する  
体育科・保健体育科の学習

教師の児童、生徒観・指導観・単元観（運動の特性の把握）

児童・生徒の実態（運動の経験や体力の課題）

学習指導要領（教科の目標 各学年の目標 運動領域・保健領域の内容）

運動する機会の二極化傾向 子供の体力の低水準 課題解決学習における課題